

## 末梢動脈疾患(PAD)

**Q4** 最近、歩行時に左足のしびれ感と痛みを感じるようになり、長い時間歩くことができなくなりました。透析歴が長くなってきたためでしょうか？ 何か良い方法があれば教えてください。(73歳、男性、透析歴15年、原疾患糖尿病)

**A4** 全身の動脈のうち、主に手足に血液を届ける動脈を「末梢動脈」といいます。この末梢動脈に動脈硬化症が生じると、手足に血行不良が起こり、末梢動脈疾患(PAD; peripheral arterial disease)と呼ばれる病気になります。しびれや痛みが間欠的に出現し、病状が悪化すると潰瘍ができたり、ひどい場合には壊死したりすることもあります。PADは末梢血管の病気の中で最も多いものです。

高齢になれば、誰でも血管は硬くもろくなるものですが、糖尿病、高血圧、脂質異常症や慢性腎臓病などがあると、動脈の内側(内腔)にコレステロールが溜まったり、血管に負担がかかり続ける状態になり、さらに硬くなります。やがて血管の内部が狭くなることで血液の流れが悪くなり、「動脈硬化症」と呼ばれる状態になります。動脈硬化症は全身どここの動脈でも起こる可能性があり、足も例外ではありません。

PADに至る血管の変化は、気づかない間

にゆっくりと進行していきます。初期の段階では、冷えや軽いしびれを感じる程度で目立った症状はなく、また歩行時に足に痛みを感じてもしばらく休むと痛みがおさまるなど、異常に気づくことはなかなか難しいといわれています。そのため、非常に症状が悪化してからPADと診断されることも珍しくありません。病気が進み、日常生活が困難になるような状況を避けるためにも、できるだけ早期に見つけ、治療を始めることが必要です。

足の痛みで特に間違えやすいのは、<sup>せきちゆうかん</sup>脊柱管狭窄症\*<sup>1</sup>や関節疾患、<sup>たうさくしやう</sup>深部静脈血栓症\*<sup>2</sup>などによる歩行中の痛みです。PADによる痛みには、「ある程度の距離を歩くと筋肉の痛みのために歩けなくなる。しかし少し休むとまた歩ける」という特徴があります。

透析患者さんはPADを含む動脈硬化のリスクが高いため、主治医の先生に相談して適切な診断と治療を受けましょう。

(田中元子/松下会 あげぼのクリニック・医師)

\*1 脊柱管狭窄症: 加齢による脊椎骨の変形により、神経の通り道である脊柱管が狭くなり、脊柱管の中を通過して足に向かう神経を圧迫することによって起こる病気で、代表的な症状は、腰痛と足の痛みやしびれから起こる歩行障害です。

\*2 深部静脈血栓症: 足の深い部分を走っている深部静脈に血栓ができ、血液の流れが悪くなって起こる病気で、最初は足の筋肉がつったりする程度ですが、この静脈は皮膚近くの静脈に比べて太く肺に通じているため、血栓が肺まで流れて詰まり、肺塞栓を起こす可能性があります。